

小学校

平成 17 年 度

教育研究員研究報告書

音

楽

東京都教職員研修センター

目 次

I	研究の概要	
1	研究主題設定の理由	2
2	研究の視点	2
3	研究の構想図	3
II	研究の内容	
1	研究の内容	4
	(1)音楽の諸要素から見た学習指導要領の内容の分析	5
	(2)音楽の諸要素に視点をあてた導入の工夫 <フィーリングタイム>	6
	(3)感じ考える学習活動と児童の感じ方を把握した指導の工夫	7
2	実践例・検証授業	
	(1)フィーリングタイム活動例	8
	○フィーリングタイム活動例① 音楽の諸要素:リズム・拍の流れ	
	○フィーリングタイム活動例② 音楽の諸要素:音色	
	○フィーリングタイム活動例③ 音楽の諸要素:強弱	
	(2)感じ考える学習活動例と児童の感じ方を把握した指導の工夫	10
	○実践例① 低学年 音楽の諸要素:リズム	
	○実践例② 中学年 音楽の諸要素:旋律	
	○実践例③ 高学年 音楽の諸要素:強弱、音色等	
	(3)検証授業	16
	○検証授業① 第2学年 題材名「リズムにのって」	
	○検証授業② 第6学年 題材名「日本のふしに親しもう」	
III	研究の成果と今後の課題	24

研究主題

一人一人の音楽的な感受を深める指導の工夫

I 研究の概要

1 研究主題設定の理由

変化の激しい社会の中で、心豊かに生きていくために、学校教育において、知識や技能に加え、学ぶ意欲や思考力・判断力・表現力などの確かな学力を育成することが求められている。

音楽科においても、音楽教育における学力として、豊かな音楽表現をする上で必要な基礎的な能力を児童一人一人に確実に身に付けさせていくことが大切である。合わせて、情意面と能力面のバランスのとれた音楽教育を一層進めることが重視されていることから、評価の観点「音楽的な感受や表現の工夫」の視点でとらえられる学力に目を向けていくことが重要だと考えた。なぜなら、音楽的な感受は、表現の技能や鑑賞の能力の根底にかかわるものであり、基盤となってこれを真に高めるものだと考えるからである。そして、豊かな音楽表現は、児童が音楽とかかわり、自らの内側に音楽の美しさや様々な音楽の特徴を感じ取るなどの感受の深まりがあつてこそ、実現できるものと考えている。

そこで、音楽的な感受に着目した学習指導を意図的に取り入れることで、児童が、自分の思いや感じることを形成し、感性を働かせながら豊かな音楽表現ができる資質・能力が培われるとともに、音楽の特性に即した思考力・判断力などを伸張することができると考え、本研究主題を設定する。

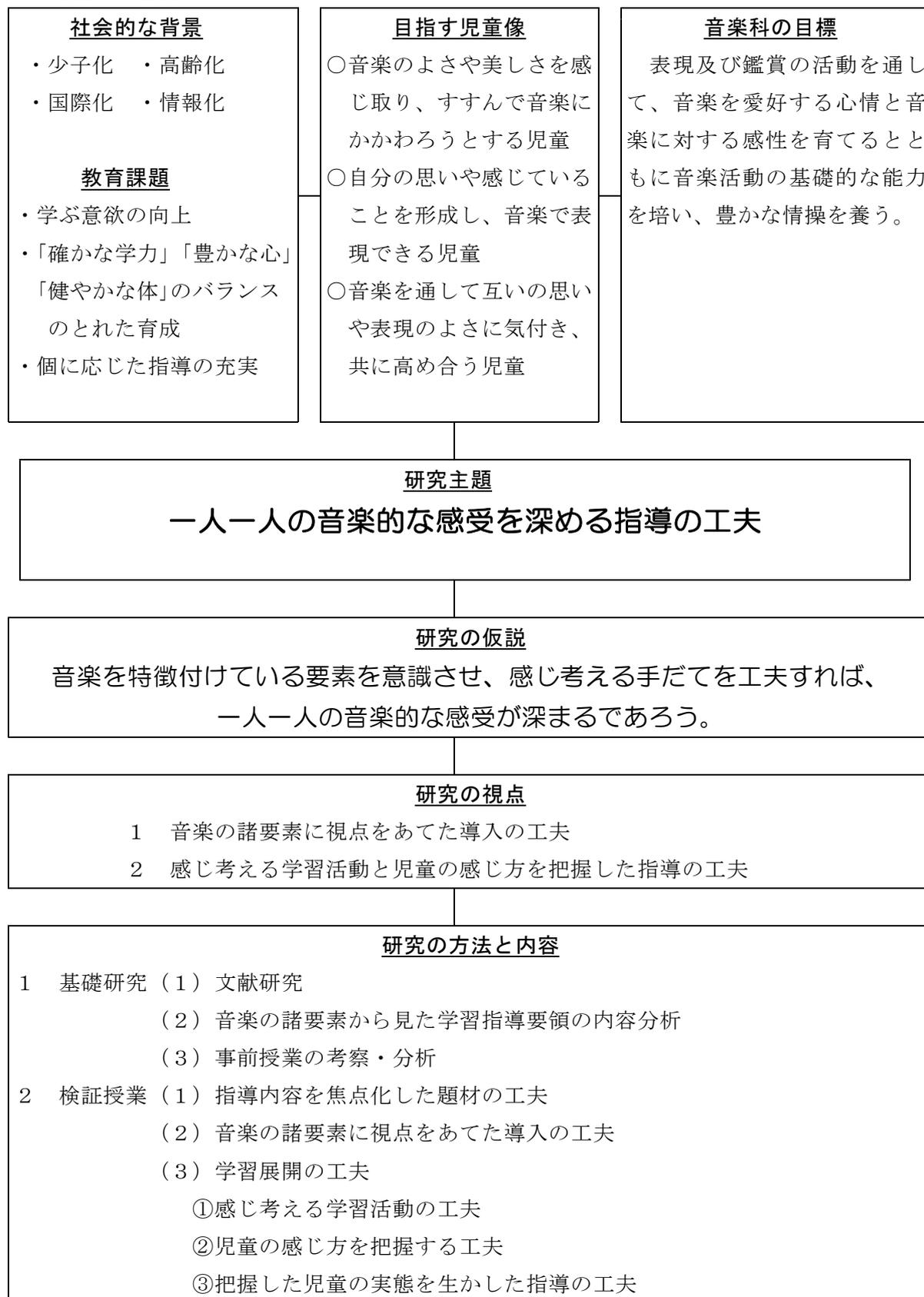
2 研究の視点

本研究では、音楽的な感受とは、音楽を聴いて音楽の諸要素を知覚したり、曲想を感じ取ったりすることととらえている。しかし、これらは、児童の内面に生じるものであり、見えにくい学力といえる。そこで、本研究の視点として、音楽の感性的な側面ではなく、構造面である音楽の諸要素に視点をあて、指導内容を焦点化した題材を工夫していく。そして、児童が音楽の諸要素を知覚する学習活動を取り入れることで、合わせて、児童は音楽の楽しさや美しさ、様々なイメージを形成していくと考えた。

また、指導の工夫としては、本時の学習内容のプレ学習として音楽の諸要素の意識付けを図る毎時間の導入の工夫と、児童が感じ考える学習活動を工夫する。さらに、児童一人一人の感じ方を把握する方法を工夫し、それを基に個に応じた指導の充実を図っていく。

そして、本研究では、教師の意図的な働きかけや友達とのかかわりから音楽の諸要素を知覚する活動を工夫し、その後の活動で児童自らが音楽の諸要素を意識し、そのはたらしを実感するとともに、合わせて、感性的な側面で、音楽の美しさや曲想などについて感じ取ることを音楽的な感受が深まったととらえることにした。

3 研究の構想図



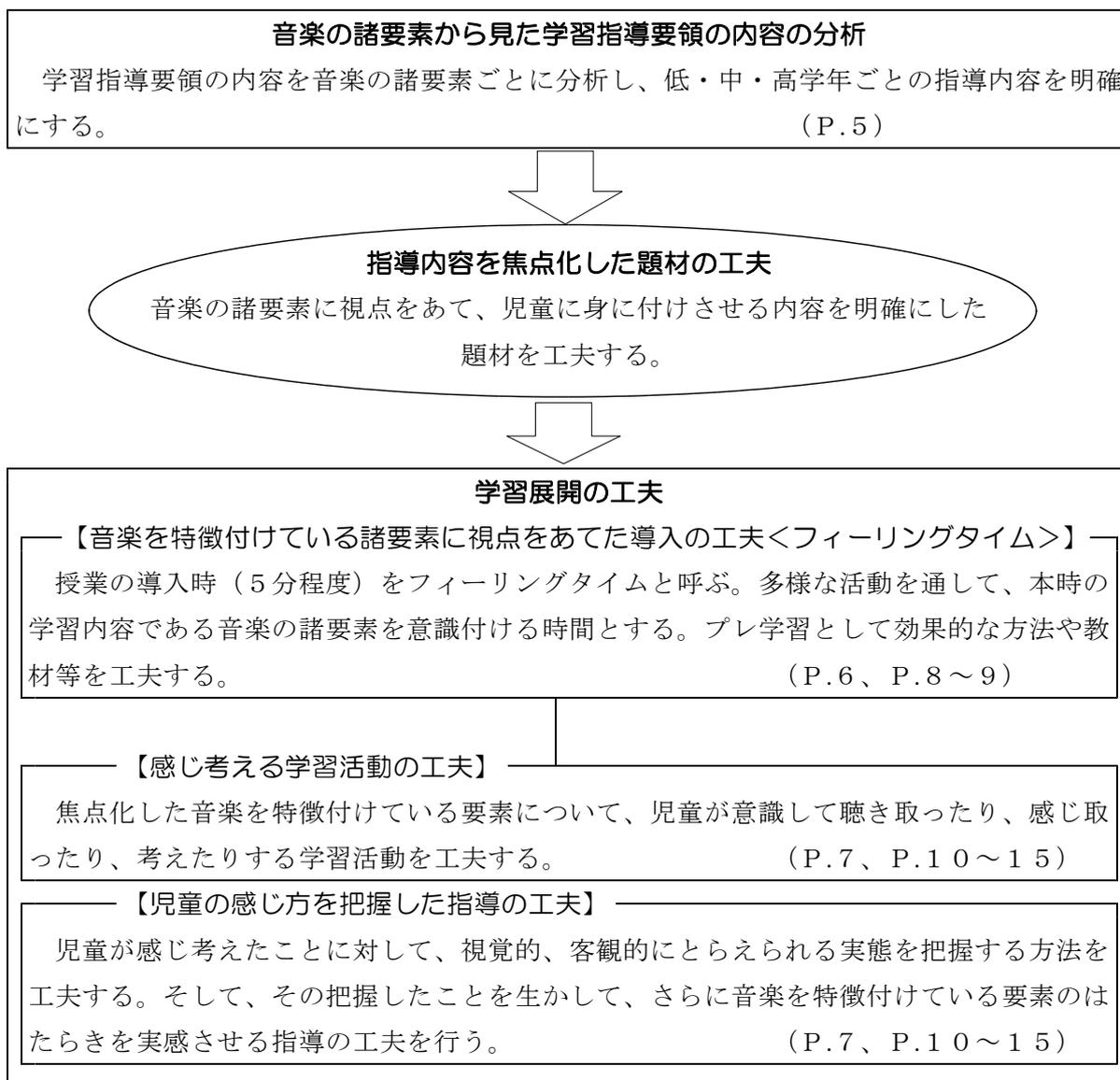
II 研究の内容

1 研究の内容

本研究では、児童に音楽の諸要素を意識付け、聴き取ったり、感じ取ったりする活動を工夫することで、音楽的な感受を深めていく。

音楽の諸要素を意識付けるということは、教師にとっては指導のねらいが明確になる、児童にとっても活動の具体的な目標が明確になるという利点を生む。このことは、各時間における児童の変容を具体的に把握することに役立つほか、児童自らが自己の変容に気付くことにもつながると考える。さらに、教師が単位時間毎に児童の実態を把握していくことにより、次時の指導内容がより明確になり、意図的に児童が変容する場を設けることができる。その結果、児童に達成感を味わわせ、情意面と能力面の両面から豊かな音楽表現を可能にさせると考えた。

このような、計画から実践に至る一連の流れの有用性を検証するほか、学習展開における以下の3つの工夫をより具体的に研究していくことにより研究の仮説に迫る。



(1) 音楽の諸要素から見た学習指導要領の内容の分析

学習指導要領の内容項目をさらに細分化して音楽の要素ごとに関連するものを分析し、一覧にした。この分類表により、音楽の諸要素に視点をあてた各学年での学習内容が明確になる。これを基に一人一人の児童に身に付けさせたい指導内容を焦点化した題材を工夫した。ただし、音楽の諸要素は、それぞれが絡み合っているため、特に上学年になるにしたがって、学習指導要領の内容項目が複数の要素にかかわるものが増えるとともに、これ以外の内容項目にも当然音楽の諸要素は関連するため、この分類表ですべて網羅できているわけではない。本研究では、リズム (P. 16~19) と旋律 (P. 20~23) に視点をあてた題材を工夫し、検証した。

<学習指導要領の内容：音楽の諸要素による分類表>

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
リズム	(1)イ リズム譜に親しむ。 (2)イ 拍の流れを感じ取って演奏する。 (2)イ 拍の流れを感じ取って身体表現する。 (3)イ 簡単なリズムを演奏したりする。 (4)ア リズム遊びを楽しむ。 (4)ア 簡単なリズムをつくって表現する。 鑑イ リズムに気を付けて聴く。	(2)イ 拍の流れを感じ取って演奏する。 (2)イ 拍の流れを感じ取って身体表現する。 (4)ア 簡単なリズムをつくって表現する。	(2)イ 拍の流れを感じ取って演奏する。 (2)イ 拍の流れを感じ取って身体表現する。 (4)ア 簡単なリズムをつくって表現する。
旋律	(2)イ フレーズを感じ取って演奏する。 (2)イ フレーズを感じ取って身体表現する。 (4)ア ふし遊びを楽しみ、表現する。 鑑イ 旋律に気を付けて聴く。	(1)イ ハ長調の旋律を視唱する。 (1)イ ハ長調の旋律を視奏する。 (2)ア 歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫する。 (2)イ フレーズを感じ取って演奏する。 (2)イ フレーズを感じ取って身体表現する。 (4)ア 簡単な旋律をつくって表現する。 鑑イ 旋律の反復や変化に気を付けて聴く。	(1)イ ハ長調およびイ短調の旋律を視唱する。 (1)イ ハ長調およびイ短調の旋律を視奏する。 (2)ア 歌詞の内容を理解して、それらを生かした表現の仕方を工夫する。 (2)イ フレーズを感じ取って演奏する。 (4)ア 簡単な旋律をつくって表現する。 鑑イ 主な旋律の変化や対照に気を付けて聴く。
和声		(4)ア 音の組み合わせを工夫する。 (4)イ いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しむ。 鑑イ 副次的な旋律に気を付けて聴く。 鑑ウ 音や音の組み合わせを感じ取って聴く。	(2)イ 音の重なりや和声の響きを感じ取って演奏する。 (2)イ 音の重なりや和声の響きを感じ取って身体表現する。 鑑ウ 音や声の重なりによる響きを味わって聴く。
強弱		(2)ア 歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫する。 (2)イ 強弱の変化を感じ取って演奏する。 (2)イ 強弱の変化を感じ取って身体表現する。	(2)ア 歌詞の内容を理解して、それらを生かした表現の仕方を工夫する。 (4)イ 自由な発想を生かして、いろいろな音楽表現を楽しむ。
速度	鑑イ 速さに気を付けて聴く。	(2)ア 歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫する。 (2)イ 速度の変化を感じ取って演奏する。 (2)イ 速度の変化を感じ取って身体表現をする。	(2)ア 歌詞の内容を理解して、それらを生かした表現の仕方を工夫する。 (4)イ 自由な発想を生かしていろいろな音楽表現を楽しむ。
音色	(2)ウ 楽器の音を聴いて演奏する。 (2)ウ 伴奏の響きを聴いて演奏する。 鑑ウ 楽器の音色に気を付けて聴く。	(3)イ 音色に気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する。 (4)イ 即興的に音を選んで表現し、いろいろな音の響きを楽しむ。 鑑ウ 楽器の音色、人の声の特徴に気を付けて聴く。	(3)イ 音色の特徴を生かして、旋律楽器及び打楽器を演奏する。 鑑ウ 楽器の音色、人の声の特徴に気を付けて聴く。

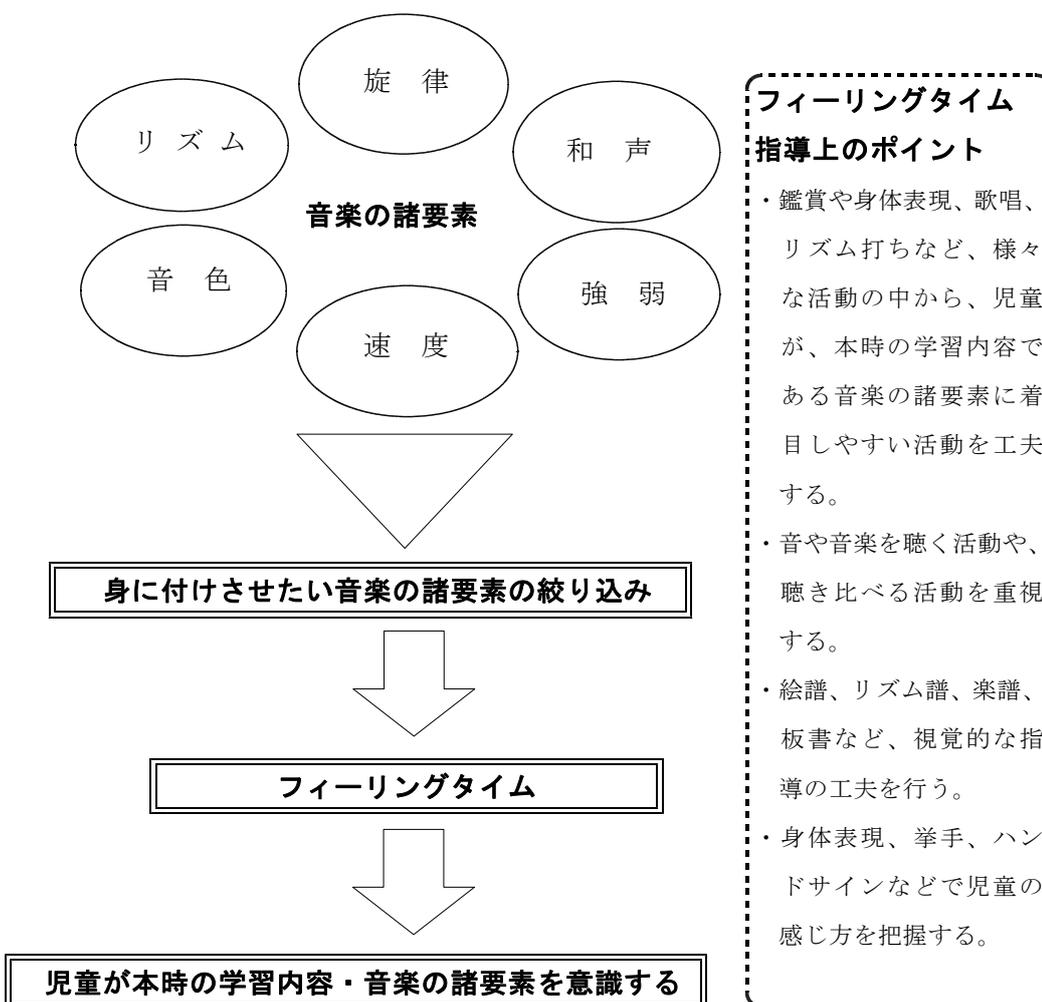
(2) 音楽の諸要素に視点をあてた導入の工夫 <フィーリングタイム>

音楽の基礎的な能力を一人一人の児童に確実に身に付けさせるためには、児童が主体的に音楽とかかわることが重要である。そして、そのためには、授業のねらいを明確にし、児童に分かりやすく伝えることが大切だと考えた。そこで、音楽の諸要素に視点をあてた題材のねらいを、毎時間の授業の導入時に、音楽を通して児童に感じたり、考えさせたりしながら意識付ける工夫を行い、その時間を<フィーリングタイム>と呼ぶことにした。

フィーリングタイムは、本時の学習内容に関連したプレ学習として位置付け、児童に、音楽とのかかわりの中で感性をはたらかせて自ら感じ取ることを習慣付け、音楽的な感受の素地を培いたいと考えている。そして、本時のねらいをより明確にして、本時で身に付ける音楽の諸要素を児童自らが意識し、本時の学習である「感じ考える活動」へ向かうことができるようにする道案内の役目を果たす。また、教師にとっては、この活動で、児童一人一人の実態を把握し、本時の学習における個に応じた指導の道筋を組み立てることができると思った。

フィーリングタイムとは・・・ 毎時間の授業の導入時5～10分間

- ①児童が音楽の諸要素に焦点化された本時の学習のねらいを意識し、音楽を感じる時間
- ②教師が本時の学習に関する児童の実態を把握する時間



(3) 感じ考える学習活動と児童の感じ方を把握した指導の工夫

① 感じ考える学習活動の工夫

本研究において「感じ考える」とは、児童が音楽にふれて、音楽を特徴付けている要素を感じ取り、音楽のイメージや曲想を想起する過程【感じる過程】、そして音楽を特徴付けている諸要素が音楽にもたらしているはたらきを表現活動を通して考えたり、表現の工夫を考えたりする過程【考える過程】、「感じてそして考える」過程ととらえた。

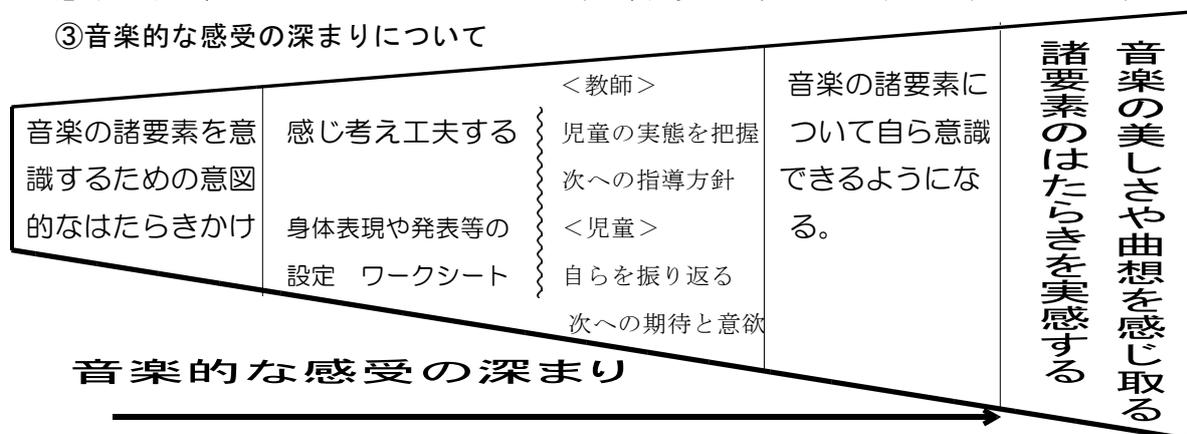
「感じ考える活動」とは、この過程を学習活動に組み込み、児童が音楽活動を通して音の感じや音楽の雰囲気をつかみ、そこから音楽を特徴付けている諸要素のはたらきを感じ取ること、感じ取ったことを表現してそのはたらきを確かめてみたり、表現の工夫を考えたりする活動である。このような活動を通して、児童が音楽の諸要素のはたらきを実感すると考えた。更に、音楽に対するイメージを膨らませて、「このように表現してみたい」という児童の思いをはぐくむとともに、知覚したことが児童の内面で音楽的な感受として深まっていくものと考えた。

② 児童の感じ方を把握した指導の工夫

「感じ考える学習活動」は、児童一人一人が感じていることの実態を把握することが不可欠である。場の設定、身体表現、ワークシートなどを適宜工夫することで、教師は次時の適切な指導・助言につなげていくことができるようになる。このとき児童自身にとっても、学習を振り返ったり、次の学習の期待や意欲をもったりするきっかけにもなる。

このような学習活動の設定と指導の工夫によって、やがて、児童は自ら音楽の諸要素を意識し始め、そのはたらきについて自ら考え、表現を工夫したりするようになると考えた。

③ 音楽的な感受の深まりについて



題材の始めでは、児童が音楽を特徴付けている要素を意識できるように、教師が意図的に鑑賞や身体表現の活動を設定し、児童に音楽を聴き取らせ、感じ取らせていく。この段階では児童の意識は受動的ともいえる。次に、児童が音楽の要素のはたらきを意識して、表現を工夫し考える場面や友達とのかかわりから、感じ方を確かめ合ったり、変容するきっかけになったりする場面をつくる。観察、発表、ワークシートなどの手だてによって、教師が児童の感じ方を把握し、さらに、指導を重ね、考える活動を繰り返すことで、児童が音楽の諸要素のはたらきを実感し、音楽の美しさや曲想を感じ取るようになると考えた。

この活動から、図のように「児童に意識させるレベル」から「児童が自らが意識するレベル」に高まったときに、音楽の諸要素を知覚する能力が定着して生きてはたらく力となり、より豊かなイメージや曲想の感受や意図的な表現の工夫につながると考えた。

2 実践例・検証授業

(1) フィーリングタイム活動例

フィーリングタイムでは、児童が音楽の諸要素としっかりと向き合うことが大切である。そのため音を聴く活動を重視する。そして、聴き取ったり、感じ取ったりした自分の感じ方を挙手、身体表現、提示されたものの中からの選択などを通して表明させるようにした。以下にその活動例を示す。

※ ◎印は「児童の活動」、★印は「教師の意図」及び「留意点」とする。

【フィーリングタイム活動例①】 音楽の諸要素：拍の流れ

学習指導要領第1学年及び第2学年の内容(2)イ 拍の流れを感じ取って身体表現する。

様々な曲を鑑賞することを通して、児童に「拍」を意識させた活動例である。

第1時の導入「曲に合わせて動いてみよう」(5分間)

- ◎「ドレミの歌」に合わせて音高を表す身体表現をする。
- ★4分音符のきざみを感じさせる。(強拍と弱拍を感じ取る前の段階) そのために、4分音符のきざみを意図的に動きの中に取り入れる。
- ◎「ミッキーマウスマーチ」に合わせて4分音符をきざむ身体表現をする。
- ★音楽に合わせて体を動かす楽しさを感じ取らせる。そのために、4分音符のきざみが明確に分かる身体表現を示す。(例：肩たたき)

第2時の導入「『どん』に合わせて動いてみよう」(5分間)

- ◎「メヌエット」(モーツァルト作曲)を聴き、教師の動きを模倣しながら身体表現をする。
- ★強拍を意識させる。そのために、1拍目に合わせて、指合わせ、ひざ打ち、足ぶみ等の身体表現を示す。



第3時の導入「3拍子に合わせて動いてみよう」(5分間)

- ◎「ミッキーマウスマーチ」「メヌエット」(モーツァルト作曲)、「ウンパッパ」を聴き、曲に合わせて教師の動きを模倣しながら身体表現をする。
- ★3拍子の拍の流れを体で感じさせる。そのために、2・3拍目は1拍目と違う体の部位を軽く打つ。2・3拍目の部分は8分音符のリズム等も混ぜる。

第4時の導入「リズムにのって楽しもう」(5分間)

- ◎メヌエット(モーツァルト作曲)を聴き、自分で強拍(どん)を感じながら自由に身体表現をする。
- ★拍の流れにのって体を自由に動かす楽しさを感じさせる。そのために、「どん」の場所はみんなでそろえようと呼びかける。

【フィーリングタイム活動例②】 音楽の諸要素：音色

学習指導要領の内容 第3学年及び第4学年(4)イ 即興的に音を選んで表現し、いろいろな音の響きを楽しむ。

音探し・音集めを通して、児童に「音色」を意識させた活動例である。

第1時の導入「音を見てみよう」(5～10分間)

◎おもしろい音の出そうな物を集め、何をどのように鳴らしているかクイズを出し合う。

★よい響きの(音色)を見付けさせるために、集中して音をよく聴くように促す。

◎音が形や色で表せることを知る。

★音色の特徴を具体的にとらえられるように、音を色や形で表している絵本「もけらもけら」を見せる。



第2時の導入「音を形で表そう」(5～10分間)

◎4つの音を聴き、音の形をイメージする。(例：とんがっている形・丸い形・らせん状の形など)

★4つの音を聴かせて、音の特徴をとらえさせる。

音に集中させるために、目を閉じて聴かせる。

【フィーリングタイム活動例③】 音楽の諸要素：強弱

学習指導要領の内容 第5学年及び第6学年(2)ア 歌詞の内容を理解して、それらを生かした表現の仕方を工夫する。

今月の歌「にじ」を通して、児童に歌の中の「強弱」の効果を意識させた活動例である

第1時の導入「ずっと *P* で歌ってみよう」(5分間)

◎今月の歌「にじ」を全部 *P* で歌う。児童の反応・・・「思いつき歌いたい」「曲の感じがでない」

★自然に強弱を付けて歌っていたことをに気付かせ、クレシェンド・デクレシェンドの特徴を感じ取らせる。ピアノ伴奏で強さを調整する。

第2時の導入「クレシェンドするとどんな気分になる？」(5～10分間)

◎今月の歌にクレシェンド・デクレシェンドをつけて歌う。

児童の反応・・・「かっこいい」「気分がよくなる」

「デクレシェンドはやさしい気持ちになる」

◎声の大きさを身体表現で表しながら歌う。(右写真)

★クレシェンド・デクレシェンドの歌い方を工夫させる。

記号の形で歌い方が違ってくることを知る。



(2) 感じ考える学習活動例と児童の感じ方を把握した指導の工夫

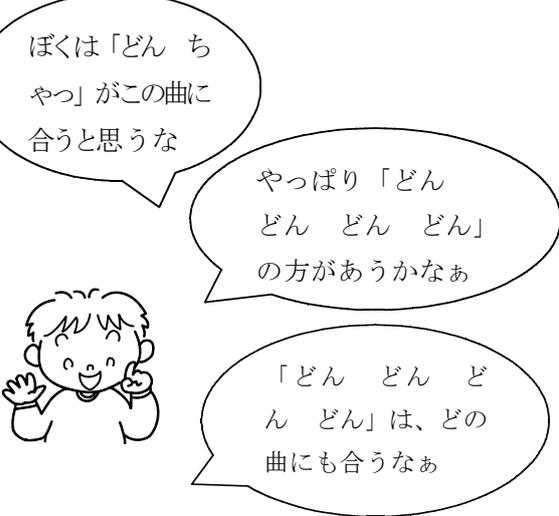
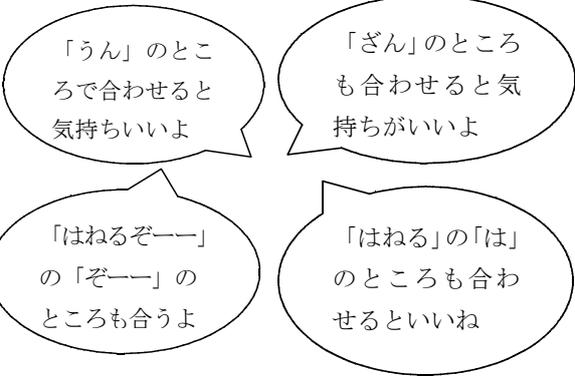
児童が音楽を聴いて音楽を特徴付けている諸要素を感じ取ったり、考えたりする活動を工夫した。また、その場面での一人一人の感じ方を把握する方法を工夫し、指導に生かした。

【実践例① 低学年（第2学年）】音楽の諸要素：リズムを取り上げ、拍の流れを感じ取った実践例

題材名	リズムによって	教材名	「いるかはざんぶらこ」
題材のねらい (2)イ 拍と拍の流れを感じ取る。			

児童が感じ考える活動	児童の感じ方をとらえる方法 →
<p>(1) 提示された絵と言葉によるリズム譜（右写真参照）の中から曲に合うと思うものを選ぶ。</p> <p>どのリズムの場所に行こうかな</p>   	<p>〈観察〉「トルコ 行進曲」と「メヌエット」を聴いて、曲に合う身体表現を3つの中から選ばせ、教室の3か所に分かれる様子を観察する。</p>  
<p>(2) 友達と1拍目をさがす</p> <p>どこで手を合わせると気持ちがいいかな</p> <p>友達との活動をふりかえる</p>   <p>友達と手が合ったのはどこだったかな</p>	<p>〈観察〉2人組でさがしている姿を観察する。</p> <p>〈ワークシートP.17参照〉授業の最後に、ワークシートに本時に学習して見つけられた「どん」の部分に○をつけられたかどうかを評価する。</p>
<p>(3) 友達と歌に合うリズムをさがす</p> <p>「どん ちゃちゃ ちゃ」はこの歌にあうね。</p> 	<p>〈ワークシートP.18参照〉3拍ひとまとまりのリズム奏を2人組でつくらせる。ワークシートに書かれたリズムから、表現の工夫を評価する。</p>
<p>(4) 違う曲でもやってみる</p>	<p>〈観察〉第1時と同じ曲や違う曲で、曲に合う身体表現ができたかどうかを観察する。</p>

教室の3か所に、1拍子・2拍子・3拍子の身体表現の絵を置く。そこに児童が集まることで、一人一人の感じ方を把握できる。児童が、拍の流れにあった身体表現はどのようなものかを繰り返し考える活動を通して、拍子感を身に付けていった事例である。

→ 感じ方を把握した指導 →	児童の変容
<p>選んだ場所から、拍子感が身に付いていない児童を把握する。</p> <p>別の場所にも行き、他のリズムも試すように促す。</p>	 <p>ぼくは「どん ちやっ」がこの曲に合うと思うな</p> <p>やっぱり「どん どん どん」の方があうかなあ</p> <p>「どん どん どん どん」は、どの曲にも合うなあ</p>
<p>前時に把握した児童は、拍子感が身に付いている児童とペアを組ませる。</p> <p>1拍目が見付けられたペアを全員に紹介し、一つずつ共有していく。</p> <p>ほかにも手を合わせると気持ちのよい場所がないか探すように促す。</p> <p>友達と手が合った場所が分からなくなっている児童には、教師が歌いながら手を合わせ、友達との活動が思い出せるように支援する。</p>	 <p>「うん」のところで合わせると気持ちいいよ</p> <p>「ざん」のところも合わせると気持ちがいいよ</p> <p>「はねるぞー」の「ぞー」のところも合うよ</p> <p>「はねる」の「は」のところも合わせるといいね</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まえよりリズムにのれるようになってうれしかった。 ・歌の中に「どん」があるのがわかりました。 ・リズムに合わせられるようになりました。「どん」が見つけられるようになりました。
<p>リズムが見付けられないペアには、他のペアがつくったリズムを紹介し、試させることでリズム奏を見付けさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いるかはざんぶらこの歌のリズムをタンバリンでやって、どんどんリズムがとれるようになった。 ・「いるかはざんぶらこ」にあうリズムがわかった。 ・前の音楽ではあんまりリズムができなかったけれど、今日の音楽はリズムがいっぱいできてよかった。
<p>曲に合わない身体表現をする児童には、教師がそばに行き、曲に合う身体表現をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「メヌエット」にあううごきはすぐにわかりました。

【実践例② 中学年（第4学年）】音楽の諸要素：旋律を取り上げ、歌い方を工夫した実践例

題材名 「曲の気分を感じて」 教材名 「剣の舞」「友だちシンドバッド」

題材のねらい (2)ア 歌詞の内容にふさわしい表現の仕方を工夫する。

児童が感じ考える活動	児童の感じ方をとらえる方法 →
<p>(1) 鑑賞教材を身体表現しながら聴き、感じ取ったふしの特徴をワークシートに記入する。</p> 	<p>〈ワークシート〉「剣の舞」を聴き、ふしの特徴を感じ取る。児童の感想の中に、ふしの特徴を感じ取った言葉があるかどうかを把握する。</p> <p>激しい感じになったり 穏やかな感じになったり・・・</p>
<p>(2) 歌唱教材に慣れ親しみながら、ふしの特徴に気付き意識しながら歌う。</p> <p>歌えば歌うほど、ふしの特徴をつかめるようになった。</p> 	<p>〈観察〉「友だちシンドバッド」 (曲との出会い)</p> <p>曲の中で、自分が意識して歌う部分が来たら立って歌う。ふしの特徴となる曲想の変化や曲の山に気付くことができたかどうかを把握する。</p>
<p>(3) 歌唱教材でふしの特徴を生かして歌い、表現の仕方を工夫する。 曲想を工夫する。</p> <p>元気な曲なので、最後までずっと元気に歌いたい。</p> <p>元気な曲の中にも、ここはやわらかく歌うといいね。</p> <p>歌詞の意味から、ここは尋ねるような気持ちで歌いたいね。</p> <p>鑑賞で感じ取ったように、歌でもふしの特徴を生かして変化をつけて歌いたいね。</p> <p>一番気分が盛り上がるところを響かせて歌うと気持ちがいいね。</p> 	<p>〈発表〉「友だちシンドバッド」 (ふしの特徴を生かす)</p> <p>全員で話し合う時間を設定し、歌い方の工夫を発表し合う。発表された中のどの歌い方で表現したいかを把握する。</p>
<p>曲の山を感じ取り、歌い方の工夫をする。</p>	<p>一人ずつ発表する。曲の山を感じて気持ちよく歌えたか挙手させて把握する。</p>

鑑賞曲で、ふしの特徴を聴き取ったり感じ取ったりする。そのことが歌唱表現において、児童が多様な歌い方の工夫を発想することに生かされた事例

→ 感じ方を把握した指導 →	児童の変容
<p>ふしの特徴を聴き取った感想が書けていない児童には、表現豊かに身体表現している児童の様子を観察させたり、他の児童の感想を参考にさせたりしながらもう一度聴かせる。</p>	<p>繰り返し聴くことで、顕著なふしの特徴だけでなく、微妙なふしの特徴も感じ取ることができた。</p> <div data-bbox="810 555 1232 766" data-label="Text"> <p>初めの部分の激しさと 終わりの部分の激しさは ちがうなあ・・・</p> </div>
<p>ふしの特徴に気づき、意識させるために、何度も繰り返し歌ったりお話に出てくる主人公のイメージをもたせたりする。</p> <div data-bbox="290 936 753 1160" data-label="Text"> <p>音の高い所は、意識して シンドバッドみたいに力強く 歌いたいなあ。</p> </div>	<p>始めはなかなか見付けられない児童も、他の児童の様子を参考にしながら、繰り返し歌うことによってふしの特徴を見付けられるようになった。</p>
<p>発表しなかった児童に対しても、出された意見の中でどの歌い方で表現するかを聞く。</p> <p>まず、隣の人と歌い合った後、挙手して、歌い合う友達を求め、できるだけたくさんの友達と歌い合うように促す。</p> <div data-bbox="258 1489 742 1825" data-label="Image"> </div> <p>本人が納得するまで何度でも挑戦できることを知らせておき、だれもが発表できるような場にする。</p>	<p>出された意見をすべて取り上げて実際に全員で歌ってみることで、始めはいろいろな歌い方の工夫があったものもだんだん一つの歌い方にまとまってきた。</p> <p>たくさんの友達と歌い合い、互いに認め合ったり協力し合うことでだんだん自信をもって豊かに表現できるようになった。</p> <div data-bbox="801 1505 1295 1751" data-label="Text"> <p>友達と歌い合ったり聴き合ったりすると、ますます気持ちよく歌えるようになって、自信もつくね。</p> </div> <p>友達が発表し、満足気な様子を見て、消極的だった児童も発表しようとする。また、一度発表をして満足感を得た児童は何度でも挑戦したいという気持ちになった。</p>

題材名 「曲の気分を感じて」	教材名 「勇気ひとつを友にして」
題材のねらい (2)ア 歌詞の内容を理解して、表現の仕方を工夫する。	

児童が感じ考える活動	児童の感じ方をとらえる方法 →																		
<p>(1) 曲のイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞の1～4番までをよく読んで物語の大筋を理解する。 題名や歌詞からくるイメージを大切にし、歌ったり歌詞を読んだりして感じたことやイメージしたことをワークシートに記入する。 	<p>〈ワークシート〉 「曲のイメージ」の欄に書かれている内容から把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">勇気ひとつを友にして 組 名前</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">①曲のイメージ</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 40%;">②どのように歌いたいか</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>③「どのように歌いたいか」を記号や線を使って、楽譜上に記入しましょう。</p> <p>歌いながら記入していこう。強弱は記号が使えるといいね。</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th>時</th> <th>今日の気分</th> <th>工夫したこと・感じたこと</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>(発表)</td></tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px; text-align: center;"> <p>勇気ひとつを友にして</p> <p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">旋律のみの楽譜</p> </div> </div>	時	今日の気分	工夫したこと・感じたこと	1			2			3			4			5		(発表)
時	今日の気分	工夫したこと・感じたこと																	
1																			
2																			
3																			
4																			
5		(発表)																	
<p>(2) 曲のイメージを大切にしながらどのように歌いたいかなを考える。</p>	<p>〈ワークシート〉</p> <p>イメージが強弱を中心とした音楽の諸要素と結びついているかどうかを把握する。</p>																		
<p>(3) 個々に歌いながら楽譜上に強弱記号などを入れていく。</p>	<p>〈ワークシート・観察〉</p> <p>歌いながら活動しているかどうかを観察する。</p>																		
<p>(4) お互いの工夫したことを聴き合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽譜上に記入されている強弱などが歌唱表現に活かされているかどうか、4～5人の友達の前で歌い、確認し合う。 聴いている児童は、歌っている友達のワークシートを見ながら、楽譜上に記入された工夫を生かした歌い方ができているか、本人のイメージしたことや、どのように歌いたいかが歌唱表現で伝わっているかを聴き取る。 	<p>〈観察・発表・ワークシート〉</p> <p>発表した歌唱表現や、友達の表現から伝わってきたことを発言した内容で児童の感受を把握する。</p> <p>ワークシートでは気持ちよく表現活動ができたかどうかを「今日の気分」に天気のマークで表す。</p> <p>音楽の諸要素については「工夫したこと」に、曲のイメージなどは「感じたこと」に記入させ、把握する。</p>																		

イメージしたことが強弱を中心とした諸要素に結び付くように、段階をふんで考えさせた。豊かな歌唱表現にするために児童が諸要素を生かすことができた事例である。

→ 感じ方を把握した指導 →	児童の変容	
<p>児童から出た言葉を板書し、イメージが言葉にならない児童には、自分のイメージに近いと思う言葉を選ばせる。</p>	<p>(1番の歌詞の A児のイメージ) 勇気をもっている。 落ちたくないから上 へ上へ行こうとする 気持ちがある。</p>	<p>(2番の歌詞の B児のイメージ) 景色を見ながら 気持ちよさそうにし ている感じ。</p>
<p>イメージした言葉と音楽の諸要素とが結び付くように、何人かの児童に発表させ、参考にさせる。</p> <p>気持ちよさそう→音色 勇気をもって →強弱</p>	<p>(A児のどのように歌 いたいか) はじめは優しく語りか けるように。「雲より~」 からは、少しずつ強くし て、最後は力強く歌い たい。</p>	<p>(B児のどのように歌 いたいか) 広い感じだから、息を いっぱい使い響きをつ ける。「ゆうき~」から はゆっくり一つ一つの 言葉を大切に歌う。</p>
<p>考え込んでいる児童には、声を出して歌いながら考えるように声をかける。</p> <p>楽譜上には記号だけでなく、言葉や自分でわかるようなマークなども使って表す。</p>	<p>クレッシェンド記号の長さや幅まで意識して記入している児童が多かった。</p> <p>アクセントやフェルマータ、「少しずつ速くする」なども使って表現していた。</p>	
<p>自分で考えた表現の工夫が思うように伝わらなかったと感じた児童には、もう一度歌ってみたり、友達と一緒に歌ってもらったりして、表現の工夫が表現の技能につながるようにする。</p>	<div data-bbox="842 1518 1257 1727" data-label="Text"> <p>フェルマータを使うと すてきだった。私もま ねしてみたい。</p> </div> <div data-bbox="842 1765 1369 1995" data-label="Text"> <p>〇〇さんの「おちていのちをうしな った。」を強く歌ったのが意外だった。 でも強くて悲しい気持ちが 伝わった。</p> </div>	



(3) 検証授業

検証授業① 第2学年 題材名 「リズムにのって」

この題材で児童に身に付けさせたい音楽の諸要素は「拍の流れ」である。指導のポイントは、①強拍（「どん」の場所）を常に意識させたこと ②曲をよく聴き、考える時間を設定したこと ③児童一人一人の拍の流れの感じ方を把握し、評価 C の児童に対する手だてを講じたことである。

この実践を通して、児童は1拍目を強く意識しながら、拍子に合った身体表現をすることができるようになった。55人中50人の児童が「前に比べてリズムにのれるようになった」と感じ、また「2拍子」「3拍子」を判断することができるようになった。さらに、曲に合うリズムを自ら見付け出し、正確なリズム奏ができるようになった。

ア 題材の目標

拍の流れを感じ取って身体表現をしたり打楽器を演奏したりする。

イ 題材の評価規準

	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
評題	拍の流れに合った身体表現を工夫することに興味をもち、楽しく活動しようとしている。	拍や拍の流れを感じ取って、身体表現や、器楽表現を工夫している。	拍や拍の流れに合わせて、打楽器でリズム打ちをしている。

ウ 実践記録

〈第1時〉めあて 「曲に合う場所を見つけましょう」 (めあて 拍を感じる)

フィーリングタイム…… ドレミの歌とミッキーマウスマーチの曲に合わせて、教師の動きを模倣しながらおどる。

学習内容…… いろいろな曲を聴き、身体表現をすることを通して、強拍と弱拍のある身体表現が合うことを感じ取る。【題材の評価規準ア】

A どんどん
どんどん…



「メヌエット」(ヘンデル作曲)はA,B,Cのどれにあうかな?

B どんちやっ
どんちやっ

C どんちやっちやっ
どんちやっちやっ



AでもBでも合うなあ

友達のまねをすともっとまようなあ

「トルコ行進曲」はどうか?



「どん」は強く、「ちやっ」は弱くうってごらん

強いところと弱いところがあると、曲に合わせやすいな



A ほどの曲にもあうよ

それならAじゃないほうがいいんじゃないかな

◎ リズム打ちをする時に強拍と弱拍を強く意識させること
によって、児童の感じ方が深まった。また、友達の動きをまね
をすることで、曲に合うリズムを感じ取ることができた児童も見られた。

〈第2時〉「気持ちのよい、どんのばしよを見つけましょう」（めあて 1拍目を感じ意識する）

フィーリングタイム…… ミッキーマウスマーチとメヌエット（ディヴェルティメント17番第3楽章演奏レディス
オーケストラジャパン「すこやかクラシック」から）を聴きながら、教師の動きを模倣しながら身体表現をする。

学習内容…… 「いるかはざんぶらこ」の1拍目を強く意識し、曲に合う身体表現をする心
地よさを味わう。【題材の評価規準イ】

(1) 2人組で気持ちよく「どん」と手が合う
場所を探す。



(2) 気持ちよく「どん」と手が合う場所を見
付けた友達のやり方を見る。模倣して気持ち
のよい「どん」の場所であることを味わ
う。



〈友達と手合わせをした場所に○をつけたワークシート〉

気持ちのよい「どん」のばしよを見つけましょう
2年 くみ ()

(うん)	いるかは	ざんぶらこ
(うん)	いるかは	ざんぶらこ
(うん)	おおなみ	ざんぶらこ
は	ね	る

「どん」のばしよを 見つけられましたか。
見つけられた よくわからなかった

(3) 一人で考えたときに、友
達と手が合った場所が分か
らなくなっている児童には
教師が個別に支援をする。



◎ 「どん」の場所が
見つけられた… 49人
よくわからなかった… 5人

(第3時)「気持ちのよいリズムを見つけましょう」(めあて 3拍ひとまとまりの流れを感じる)

フィーリングタイム

- (1) メヌエット(モーツァルト作曲)を聴き、教師の身体表現を模倣する。
- (2) 「ウンパッパ」を曲に合わせて体を軽く動かしながら歌う。



先生の「どん」に合わせてるとリズムにのれるかんじだな

学習内容…… 「いるかはざんぶらこ」は3拍ひとまとまりのリズム表現が合うことを感じ取り、タンブリンとカスタネットを使って表現する。【題材の評価規準イ】

前の時間に見つけた「どん」の場所を思い出してから、今日の勉強をしましょう。



2人組になって「どん」の係と「それ以外」の係を決めてね。

見付けたリズムを「どん」と「ちゃっ」で書きましょう。

〈児童が言葉でリズムを記入したワークシート〉

気持ちのよいリズムを見つけましょう

2年(くみ)と()でやったよ
みつけたリズム
「どん」と「ちゃっ」で書きましょう

どいちゃっちゃっどんちゅちゅどんちゅちゅどいちゃっちゅ

どんうんちゅどんうんちゅどいんちゅ

気持ちのよいリズムを見つけられましたか。
() (見つけられた) 友だちのをまねしてうまくできた・よくわからなかった
() (見つけられた) 友だちのをまねしてうまくできた・よくわからなかった

- ◎気持ちのよいリズムが見つけられた…4人
友達のまねをしてうまくできた…6人
よく分からなかった…6人

◎ 強拍と弱拍を別々の打楽器で演奏すると、拍の流れにのった心地よいリズム伴奏になることに児童自らが気付くことができた。本時では弱拍を休符にしたり8分音符にしたりするなど、打楽器による簡単なリズム伴奏のいろいろなパターンをつくることができた。

〈第4時〉 「リズムにのって、楽しもう」 (めあて 拍の流れに対する感じ方の深まりを確認する)

フィーリングタイム

メヌエット (モーツァルト作曲) を聴き、自分で「どん」を感じながらいろいろな身体表現をする。

学習内容… 第1時と同じ曲を聴いて、曲に合うリズムを選んだり、「ドレミの歌」や「ウンパッパ」に合うリズム表現を工夫したりする。【題材の評価規準ウ】

先生を見なくても自分で「どん」が分かったよ



「どん ちゃっ ちゃっ
どん ちゃっ ちゃっ」
が合う曲は**3拍子**です。



「どん ちゃっ
どん ちゃっ」が合う
曲は**2拍子**です。

「ドレミの歌」は「どん ちゃっ」でリズムをうつといいね。



はじめはどのリズムが合うか分からなかったけど、今日はすぐに分かったよ。

◎はじめに比べてだんだん音楽に合わせられるようになったと思いますか。

思う 50人 思わない 1人 よく分からない 4人

◎分かったこと、できるようになったこと

- ・リズムの楽しさが分かった。
- ・最初は1拍子～3拍子のことがあまりわからなかったけれど、分かるようになりました。それから、1拍子は何の曲にでも合うことが分かりました。
- ・リズムをやっているとこんなに体がかってにうごくなんて、すごいと思いました。さいしょはどんのぼしょが分からなかったけど、できました。
- ・「この歌にはこんなリズムが合うんだなあ」とか「この歌は2拍子なんだなあ」とかいろいろなことがよく分かりました。

★考察

本実践では、特に児童が1拍目を強く意識する活動を継続することが有効だった。そのことによって2拍目、3拍目も自然に感じ取れるようになり、リズムにのって気持ちよく身体表現をしたり、演奏したりすることができるようになった。本題材の後「山のポルカ」に取り組むと、「あっ、2拍子だ!」という声があがり、曲に合わせて自然にリズム打ちをする姿が多く見られた。また、担任からも、教室で「ピラミッドの歌」を紹介すると「山のポルカとは違うね」「3拍子だ」という声があがったと聞いた。この実践を通して、曲を聴いたときに「何拍子かな」という意識が自然にはたらくようになり、児童の「拍の流れ」に対する感受を深めることができたと考える。

検証授業② 第5学年 題材名 「日本のふしに親しもう」

この題材で身に付けさせたい音楽の諸要素は「旋律（音階・音組織）」である。指導のポイントは、①日本の音階による曲と西洋の音階による曲をピアノの演奏で聴き比べたこと
②構成音に気付かせるために、曲を聴いて児童が感じ取ったことを「感じの違い」と「曲のつくり」に分けて板書したこと ③好きな音階を選んでふしづくりをしたことである。

この実践を通して、「使う音を変えるだけで全く違う曲が作れるのは、やっぱりすごいと思う。」「日本だけではなくいろいろな国の音階を知りたい、つくってみたい。」等、旋律に対して興味をもち、日本の音階の中でも、ミとラが半音下がるだけで大変感じの違いが変わるのに驚く等、実感を伴った理解ができた。この経験は、今後、様々な音楽と出会うときにも生かされると考える。

ア 題材の目標

日本の音階の構成音に気付き、ふしをつくったり演奏したりしながら日本のふしに親しむ。

イ 題材の評価規準

観点	ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽的な感受や表現の工夫	ウ 表現の技能
評価規準	旋律に興味・関心をもち、進んで聴いたり演奏したりしている。	いろいろな旋律を聴き、音階の構成音や曲想の違いを感じ取るとともに、それを生かした表現の仕方を工夫している。	日本の音階の構成音を用い、工夫して表現している。

ウ 実践記録

第1時 「ふしの秘密をさぐろう」 めあて 音階の構成音に気付き、旋律に関心をもつ。

フィーリングタイム 〈仲間分けクイズ〉

①「オーソーレミオ」 ②「アヴィニヨンの橋の上で」 ③「さくらさくら」 ④「ほたるこい」を聴き、西洋の音階による曲と日本の音階による曲の感じの違いに気付く。

★聴き比べやすいように、4曲とも歌唱をなくし、ピアノ演奏で聴かせる。

★仲間分けを考え、ワークシートに記入させる。

何人かに発表させたあと、友達の意見を参考にしながら、再度演奏し、考えさせる。

★4曲について、曲名とどこの国の曲かを知らせる。

学習内容 【題材の評価規準ア、イ】

(1)「こきょうの人々」と「子もり歌」を聴き、感じの違いを聞き取る。

(2)「こきょうの人々」と「子もり歌」を歌詞で歌い、感じの違いを聞き取る。

(3)「感じの違い」と「つくりの違い」に分けてワークシートに記入する。

ふしの秘密をさぐろう

1 4曲聴きます。仲間同士2つのグループに分けよう
①②③④ (・)(・)

2 2曲聴きます。感じの違いについて書こう!

3 2曲のつくりの違いについて気づいたことを書こう!

4 ふしの秘密について気づくことができましたか？
よくできた 少しできた できない

5 感想

【感じの違い】

こきょうの人々	子もり歌
陽気	暗い
静かだが力強い	静かな音が続く
洋風	和風
	時代劇
楽しい	古い
	悲しい

【つくりの違い】

こきょうの人々	子もり歌
音の高低がある	音の高低がない
音に幅がある(急激に上がる)	音に幅がない(ゆっく り上がる)
ドレが多い	ラレが多い
使われない音がない	ファシがない
高い音が多い	低い音が多い

(4) 「こきょうの人々」と「子もり歌」を階名で歌い、構成音の違いに気付く。

★西洋の音階(ハ長調)と陽旋法の構成音の違いをわかりやすくするため、ドレミカードを用いて示した。これにより児童は自分の気付きを確認することができた。



◆児童の感想

「最初はふしの秘密を知らないで音階を書いたり日本と外国の音楽を聞いたけれど、ふしの秘密がわかったら音楽がますます楽しくなった。」

「ちがいをさがすのが楽しかった。日本の音階にこんなちがいがあるなんて、私はピアノを習っていたのに気がつかなかった。自分がピアノで今練習している曲でもひみつをさがしてみたい。」

第2時 「日本のふしをつくってみよう」 めあて 日本のふしを工夫して表現する。

フィーリングタイム

日本のふしのパターン例をリコーダーで演奏し、日本の音階による曲想を感じ取る。

- ★4つの日本のふしのパターン例を提示する。
- ★曲名は、イメージをもって演奏できるようにわらべ歌風、おどり風、のんびり風、お祭り風という曲名をつけた。
- ★容易に演奏ができるように、使用音は3～4音で、曲の長さは2～4小節とした。

学習内容 【題材の評価規準アイ】

- (1) 日本のふしの構成音を確認する。
「レ・ミ・ソ・ラ・ド」
- (2) 子もり歌の楽譜を例に、曲の始めと終わりの音を「ラ・レ・ミ」にすると日本のふしの感じになることを確認する。
- (3) 好きな楽器で、ふしづくりをする。

「日本のふしをつくろう!」

確認しよう!

①日本の音階 「レ・ミ・ソ・ラ・ドレ」

②曲の始まりと終わりは (レ)(ミ)(ラ)にしよう!

リコーダーで次のパターンを吹いてみよう!

(わらべ歌風)

(おどり風)

(のんびり風)

(お祭り風)

★五線紙カードを用意し、必要に応じて記譜を促す。

(4) 自分のつくった曲を発表し、聴き合う。

◆児童の感想

「最初ぼくは良い和風の曲を作曲できるか、心配でした。でも先生がつくった曲を見本にしてがんばった結果、自分ではちょっと自信は無いけれど和風という感じがでている曲ができました。その曲をみんなの前で弾いたら、うまくいったのでうれしかったです。」

「作曲ってけっこうむずかしかったけれど、自分だけの曲がつくれて良かったです。友達の曲を聴いていろんな曲をつくるアイデアがあるんだなあと思いました。」

第3時 「いろいろな日本のふしを知ろう」 めあて いろいろなふしの違いを感じ取る。

フィーリングタイム

「子もり歌」(陽)、「子もり歌」(陰)、「ていんさぐぬ花」を聴き、曲想の違いを感じ取る。

[児童の感じたこと]

「子もり歌」(陽)：東京の子もり歌・昼頃おどる・暗い・やさしい・包み込む感じ

「子もり歌」(陰)：京都の子もり歌・夕方頃おどる・暗さがパワーアップしている

「ていんさぐぬ花」：少し洋風少し和風・明るいと暗いが混ざっている・楽しくて愉快

学習内容 【題材の評価規準ア、イ】

(1) 「子もり歌」の2曲と沖縄の音階による曲「ていんさぐぬ花」を歌う。

(2) ワークシートにある「ABCのパターン」からそれぞれのふしの構成音を調べる。

★ミブラbを拡大鍵盤図で確認する。それぞれの構成音を聴かせる。

(3) ミブラbを意識して、「子守歌」を歌う。

(4) 「ていんさぐぬ花」を歌って、「子守歌」との違いを感じ取る。

★ていんさぐぬ花の楽譜の伴奏形から沖縄の音階の構成音を確認する。

◆児童の感想

「音階の一つが違うだけでこんなに変わって聴こえるなんてとてもおどろいた。次はこの音階で曲を作れるなんてとても楽しみです。音階は楽しいと思いました。」

「京都や東京や沖縄に行ったような感じがしたので『心がなごむ』を体感したようだ。旅行に行った感じだった。」

「ふしの秘密をさぐろう!②」
年 組 名前

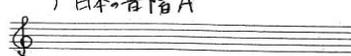
①3曲の日本の曲を聴きます。感じの違いについて書こう!

A

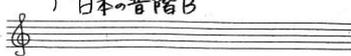
B

C

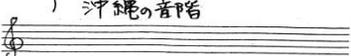
A () 日本音階A



B () 日本音階B



C () 沖縄音階



ABCのパターン



3つの日本の音階について調べました。感想を書きましょう。

感想

第4時 「自分のふしをつくろう」 めあて 音階の構成音を用い、工夫して表現する。

フィーリングタイム

日本の音階と沖縄の音階のふしのパターン例を聴き、違いを感じ取る。

- ★聴き比べやすいように、簡単なリズムを使う。
- ★日本の音階は、同じ旋律線で、ミとラを♭にし、二つの音階の違いを意識できるようにした。

「日本のふしをつくろう！」
確認しよう!

日本の音階A ファ・シがない 曲の始めと終わりレ・ミ・ラ

日本の音階B ファ・シがない 曲の始めと終わりレ・ミ・ラ

沖縄の音階 ラ・シがない 曲の始めド・ミ、曲の終わりド・ミ

3つのパターン

年 組 名 前

・日本のふしをつくることができましたか?
よくできた 少しかけた できない

・3つの日本の音階を調べて、好きな音階のふしをつくりました。
つくってみた感想や友だちの曲を聴いた感想を書きましょう。

使った楽器 () いっしょにつくった友達 ()
つくった音階 (日本の音階A 日本の音階B 沖縄の音階)

感想

学習内容 【題材の評価規準ウ】

- (1) それぞれの構成音を階名で確認する。
 - ★曲のはじめと終わりの音について知らせる。
- (2) 楽器とつくりたい音階を選び、一人で、または友達と一緒にふしづくりをする。
 - ★五線紙カードを用意し、必要に応じて記譜を促す。
- (3) 一人で、または友達とふしづくりを工夫する。
 - ★ふしを重ねたり、つなげ合わせたり、カノンのようにふしをずらしたりして工夫することを伝える。
- (4) できた曲を発表し、聴きあう。

◆児童の感想

「3人でいっしょに曲をつくって、カエルの歌みたいが続けてひいたのがうまくできて良かった。」

「いつも1人で作っていたので2人でつくったのがハモって楽しかったです。次は沖縄の音階だけでなく色々な作曲を試みたいです。最初作曲はあまり好きではなかったけれど今回の作曲で『作曲ってたのしいな』と思いました。」

★考察

本題材では、「ふしの秘密をさぐる」をめあてに、毎時間ワークシートを活用して児童が自分の感じ考えたことを確かめたり、振り返ったりできるようにした。特に、第1時に、「曲の感じ」とは別に、「曲のつくり」に着目させて考えさせ、また、階名唱をさせたことで、さまざまな意見の中から音階の構成音に気付くよう導くことができた。4時間扱いの題材の中、まず、日本のふしの特徴に気づき、次に一人一人が自分のふしをつくり、さらに陰旋法や、沖縄の音階に発展させたことで、日本のふしに対しての感受を一步一步、段階的に深められることができた実践であった。

Ⅲ 研究の成果と今後の課題

一人一人の豊かな表現の根底である「音楽的な感受」を深めるために、音楽の諸要素に視点をあてた題材で、指導の工夫を行い、検証した。本研究の成果と今後の課題は、次の通りである。

1 研究の成果

(1) 音楽の諸要素に視点をあてた導入の工夫 <フィーリングタイム>

音楽の諸要素について意識付けを図る毎時間の導入は、短時間で効果的な活動になった。学習の内容が焦点化され、本時の学習で身に付けさせる内容を側面から支えるプレ学習の役割を果たした。また、楽しく多様な活動で児童に意欲をもたせるとともに、音や音楽を集中して聴く態度が育った。

(2) 感じ考える学習活動の工夫

教師の投げかけにより、音楽の諸要素について低学年であっても十分試行錯誤し、考える姿がみられた。また、身体表現などの表現を模倣したり、友達の演奏や発言を聞いたりする友達とのかかわりによって、一人一人の感じ方や考えが深まっていった。この活動を繰り返し経験することで、児童は音楽の諸要素を知覚し、自ら聴き深めたことで、曲の楽しさや美しさ、曲のイメージなどを感じ取るにつなげていった。

(3) 感じ方を把握した指導の工夫

児童の感じ方が、身体表現、発表などの場の設定、ワークシートなどを工夫することにより、これまで以上に把握できることが分かった。これらの工夫により、教師が一人一人の児童の実態に合わせて適切な指導をすることが可能になり、個に応じた指導の充実につながった。また、児童にとっても具体的な自己評価ができる場になり、児童一人一人が自分の表現に自信をもつようになった。

(4) まとめ

本研究では、音楽の諸要素に視点をあて、指導内容を焦点化した題材を工夫した。そのため学習のねらいが明確になり、一人一人の児童が「分かった」「できるようになった」「自分が成長した」「知識が増えた」「勉強になった」などの感想が多く、児童に学びの実感を味わわせることができた。また、このことは、音楽の諸要素を児童自ら意識できる実感を伴った理解となり、その後の学習活動や生活の中でも発揮され、生きてはたらく力となった。

2 今後の課題

本研究では、音楽的な感受を深める指導の工夫を、特に音楽の諸要素に視点をあてて考えてきた。今後は、他の題材においても、音楽の諸要素に視点をあて、指導内容を焦点化するとともに、音楽の美しさなどを感じ取ったり、表現の技能、鑑賞の能力に生かされる指導の工夫を行う。また、音楽の諸要素に視点をあてた題材について、児童の発達段階に応じた系統的、段階的な指導について研究を深め、年間指導計画への位置付けを工夫していくことが課題である。

平成17年度 教育研究員名簿（音楽）

区・市名	学校名	氏名
港区	白金小学校	宮澤裕之
大田区	馬込小学校	加藤浩子
杉並区	荻窪小学校	○山根まどか
北区	谷端小学校	金子陽子
葛飾区	東水元小学校	大谷美奈子
江戸川区	小岩小学校	山田まゆみ
三鷹市	南浦小学校	武田美穂子
日野市	日野第四小学校	西野啓子
国分寺市	第一小学校	◎山中佳子
西東京市	保谷第一小学校	山本恵子

◎世話人 ○副世話人

担当 東京都教職員研修センター 指導主事 秋元みさ子
指導主事 丸山 智子

平成17年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成17年度 第12号

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒一丁目1番14号
電話番号 03-5434-1974

印刷 株式会社 今関印刷